

# W3C の概要・国際標準仕様策定策定プロセス

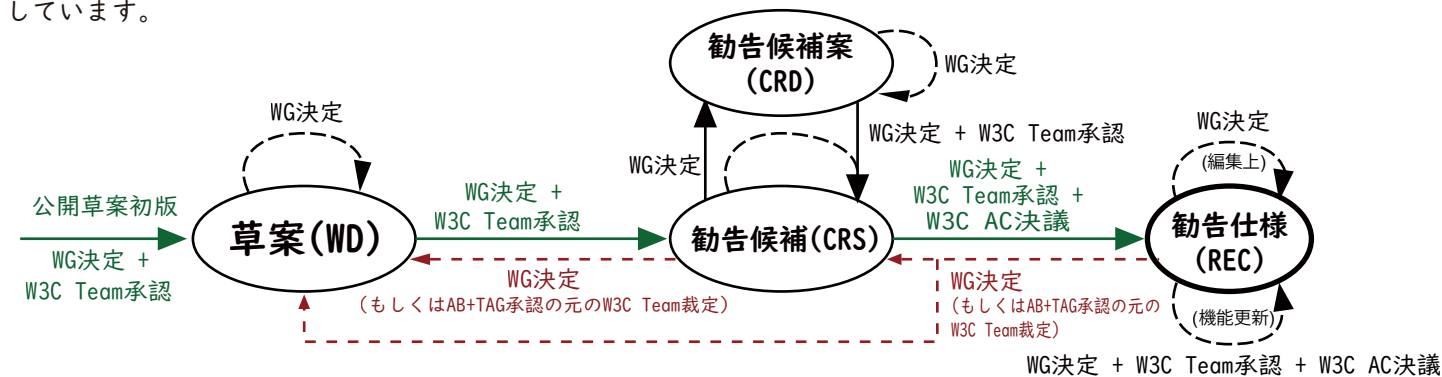
長年にわたり、W3C は進化する Web 技術やその活用に対応するため、漸進的に変化してきました。会員主導のコンソーシアムとして、W3C 会員が過半数を占める理事会により策定される運営と戦略的方向性の元、ガバナンスを全面に打ち出し、明確な報告、継続的かつ高い透明性を持つグローバル協力を基本に活動しています。W3C 会員による選挙で選出される、W3C 運営顧問である運営諮問委員会 (AB) と技術諮問委員会 (TAG) が設置されており、2 年任期でベンダ中立な参加が求められます。会員各組織代表が参加する W3C 会員各組織代表総会を年に 2 回行い、W3C 全体の運営について議論しています。この内の 1 回は、W3C 技術全般について議論する W3C 年次技術者総会として開催されます。

Web 技術の具体的な仕様や指針の策定はワーキンググループ (WG) で行われており、W3C 会員からの参加者、W3C 技術スタッフ (Team Contact) と必要に応じて会員外から招聘される招聘専門家 (IE) によって構成されます。活動の領域、対象とする仕様書や意思決定方法は WG 設置趣意書に規定されており、W3C 会員投票による承認を受けます。WG 以外には、特定技術領域についての全般的議論を目的とするインタレストグループ (IG)、ビジネス領域のユースケース議論を行うビジネスグループ (BG)、広く一般から意見聴取しインキュベーションを行うコミュニティグループ (CG) も設置されます。

W3C 技術文書には勧告仕様、技術的なアイデアや背景をまとめたグループノート、勧告仕様に紐づくリスト項目を登録するレジストリ、新たな技術仕様策定に向けた会員提案の分類があります。

## 仕様策定プロセス

勧告仕様の策定作業では、W3C プロセスドキュメントに規定された各段階やレビュー要件を経ます。レビューには各領域の専門家が所属する水平グループによる技術的レビューや、会員全体によるレビューが設定され、また加えてリエゾン関係にある様々な標準化団体や、一般の開発者コミュニティに対してもレビューを依頼し、会員からの意見同様に対応しています。



草案 (WD) は公開草案初版 (FPWD) から始まる正式な勧告仕様策定作業の開始点で、この段階の全ての仕様が勧告になるとは限りません。勧告候補 (CR) になるまでに、草案には水平グループによる技術レビューが要求され、指摘点を全て解決する必要があります。CR の段階において仕様が要件を満たしているかの確認、広く一般に実装を呼びかけての実装と相互運用試験を行います。各機能について最低 2 つ以上の実装が確認されるなど一定の条件を満たした後、W3C 会員全体によるレビューを経て仕様書は勧告 (REC) として公開されます。

## 水平レビュー (HR)

Web 技術全体へ指針を出している TAG に加え、アクセシビリティ (a11y)、国際化 (i18n)、セキュリティ、プライバシーの 4 領域について専門家により構成される水平グループが HR を行います。この活動は W3C で開発されている仕様に限らず、関連分野で活動する WHATWG や IETF などの標準化団体の仕様への参画も行っています。また、これらのグループは各分野において Web 仕様開発者向け開発ガイドラインや仕様書の自己レビューチェックリスト、また一般向けの解説も提示しています。

TAG (Technical Architecture Group) は、Web 技術全体に関わる技術仕様に関与する技術顧問の役割を果たしており、Ethical Web Principles、Web Platform Principles といった Web 全般の原則を文書にまとめ、また仕様レビューなどの議論での関連情報を TAG Findings として公開しています。

a11y は、WCAG などのアクセシビリティ基準を策定するグループと連携して活動しており、ビデオ通話などさまざまな技術領域特化のユーザ要求の取りまとめも行っています。

i18n は、ブラウザ上での文字や言語の取り扱いと表示に加え、全世界で地域により異なる表記が利用されるデータについて API 仕様やデータ形式が正しく保持・処理できるかについても活動しています。また、地域依存の数値表記のレジストリ、文字や文字列の扱いの原則をまとめた文書、さまざまな言語の組版仕様の取りまとめを行っています。

プライバシーは、fingerprinting をメインにブラウザ上でのユーザ情報の扱いにおいて最小限の共有となるように仕様を策定するために活動しています。また、次世代のブラウザにおける権限要求プロンプトなど将来に向けた議論も進めています。

セキュリティはプライバシーとともに fingerprinting の可能性のある技術領域を調査するとともに、AI などを含めた新技術が Web に与える影響についての文書の取りまとめを行っています。

